

人生にとっさの決断が必要な時、 そこに永遠に誇れる価値を残せたら素晴らしい

ストーリー

一九四〇年（昭和十五年）夏、第二次世界大戦で日本が降伏する5年前、リトアニアにある在カウナス日本領事館に勤務していた外交官の杉原千畝は、窓の外、領事館の門に殺到している人々のただならぬ姿を見て驚いた。その人々は隣国ポーランドから逃げて来たユダヤ人難民だった。彼らの願いは、ドイツ・ヒトラーによるユダヤ人への迫害から逃れるため、日本を通過して外国へ行くための通過ビザを日本の領事館に発給してほしいというものだった。彼らが殺されずに生き延びるためには、もはやこの方法しか残されていないような状況であった。彼らから話を聞いた杉原は、さっそく日本政府へビザ発給許可を求め、電報を打つ。「発給あいならぬ」。再び電報を打ち許可を求めたが、日独伊三国同盟の事情もあり、やはり答えは「否」。悩んだ末、杉原が選んだ決断は、独断でビザの発給をすることであった。

見どころ①一人芝居



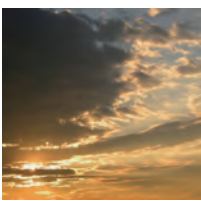
TV、映画などではなかなか見ることのない役者一人きりのお芝居。一人の人の演技をずっと見続ける・・・、1時間以上、一人の人を見続ける・・・、そんな経験あまりしたことはないのではないでしょうか。一人の人間が発する“生きている”エネルギーは、あなたの五感に衝撃の波動となってダイレクトに伝わることでしょう。

見どころ②役者 水澤心吾



実在の人物を演じるということ。それは、その時間、「演技をしている自分」ではなく、杉原千畝になってまさにその時その場所での瞬間瞬間を生きる、そんな「真実の演技」（＝メソッドという考え方）を追求しています。演じることで人物の人生を理解しようと試み、その不変的愛の精神の発露に共感しながら、人間の愛と意志の尊さを伝える媒体になりたい、そんな熱い思いをもって演じています。

見どころ③人道的行為



家族愛や友愛のように、人は、見ず知らずの初めて会った人に対しても隣人愛・人間愛を持つことがあるのではないのでしょうか。人種や国籍や信じるものの垣根を越えた人類愛を、ごく当たり前にごく自然に感じる感性をあなたも持っていませんか？人の道とは何か、その行動の尊さは証明されたのか。杉原千畝の生涯を通して、ぜひ、ご自身の目で確認してください。

見どころ④勇気と決断と愛



人を思いやる愛の力のゆえに勇気を出して自分で決断したビザの発給。杉原千畝の出会った「いざという時」を、あなたも迎えた時、勇気を持てるか、同じ決断ができるだろうか・・・心の中で問うかもしれません。彼の決断には、その場にいた妻や子供の愛の支えがありました。愛が愛を導いたともいえる、人の心の温かいつながりを、小さくても真実な愛の偉大な力を、感じてください。

もっと杉原千畝！
もっと水澤心吾！

インターネットホームページで更に詳しくご紹介しております。
是非ご覧下さい。 <http://www.misawashingo.com/>

日本全国、出張公演承ります。

出張公演のお問合せは、上記ホームページ内の「お問い合わせ」にて、または下記ビジョン企画までご連絡ください。

ビジョン企画 TEL: 090-9157-2284 FAX: 03-3465-1400 E-Mail: vision308@kih.biglobe.ne.jp

